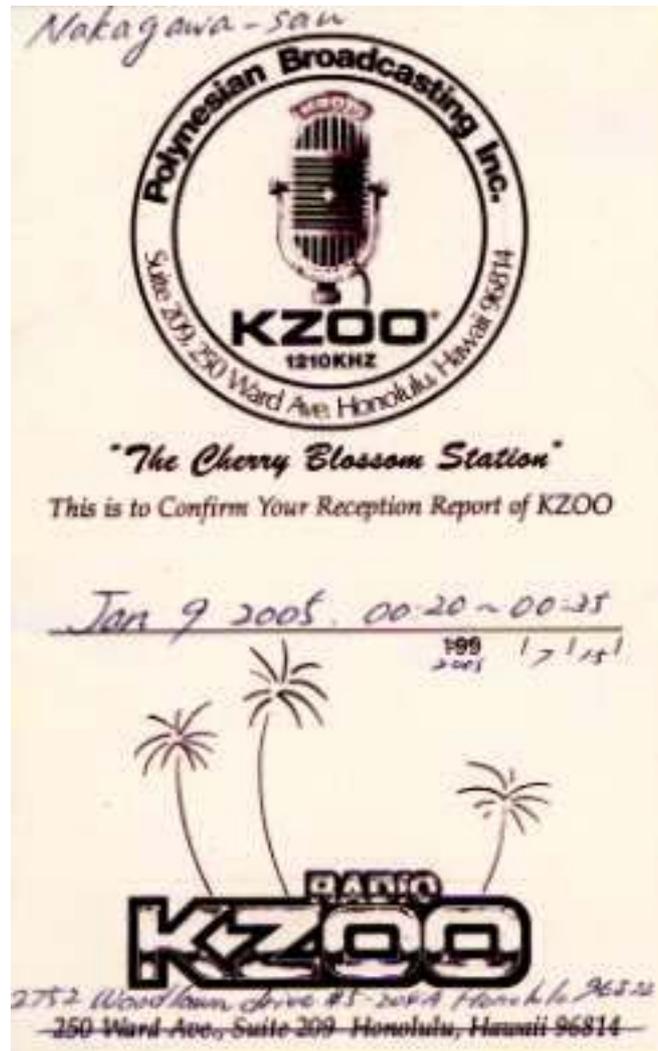


# MY BCL LIFE

## 2005



## 目次

～プロローグ～

- ・ 2005 年師走・・・3
- ・ 酒とペディションの日々・・・3
- ・ ペディションの省力化・合理化・・・6
- ・ 寸暇を惜しんでのオフ会・・・7
- ・ 海外の DXer との交流・・・9
- ・ KZOO 受信とベリゲット・・・11
- ・ 2005 年の工作・・・13
- ・ QSL 獲得への道・・・15
- ・ 自宅での DX・・・16

～エピローグ～

- ・ Join Globally, Act Locally! ...17
- ・ 特別寄稿:「ペディ記」・・・19

表紙写真：

表表紙写真：S 師の局訪問によりゲットして頂いた KZOO のベリカード

裏表紙写真：太東崎ペディの際に珍局到来を祈願する東金のラーメン屋「珍来」(笑)

～プロローグ～

### 【2005 年師走】

今年もまた、師走の忙しい時期にキーボードに向かっている。これを書く時期になると、ああ、今年ももう一年経ったのかと、時の流れを感じるのである。2005 年も振り返りをしてみると、随分と趣味の時間を謳歌させてもらった。2004 年版を書いているときは、もうこれだけ楽しんだのだからこれ以上楽しみようがないだろうと思ったりしたが、ところがどっこい、まだまだ奥が深い。BCL の神様はその気になればいくらでも、楽しみの種を準備して下さっているのである。

楽しみの種は、自分が楽しもうと思う限り多分尽きることはないのだろう。これは仕事についても、そして人生そのものについてもきっと同じことが言えると思う。2006 年は今年できなかったことを、もっともっとやっていくことになるだろう。何がやりたいのか、何ができるのか？それを知るためにも、今年 1 年を一つ一つ振り返っていこう。

### 【酒とベディションの日々】

大げさなタイトルだが、それでもまあ年に 16 回もやれば随分やったと言えるだろう。とにかくよりディープな DX がやりたくて、そしてその機会が待ちきれないマニアな仲間が集まって、1～12 月まで毎月いろんなところに繰り出していったのである。そのお陰で随分いろんな局が受信できたし、沢山の楽しい思い出ができた。

#### 太東崎デビュー

今年初めて行ってすっかりはまってしまったのは、千葉の太東崎である。以前から

S 師より太東崎は凄いいところだと聞いてはいたのだが、実を言うと正直それほどまでは期待してなかった。昨年は三浦半島の雨崎というところに初めて行って、ノーノイズ、伝播の良い環境にすっかり魅了されてしまった。そして外房だからといって、たかだか隣の県なのだから、そんなに違いはないだろうと思っていたのであった。しかし初めてそこに行って、その予想は根底から覆されることになった。



太東崎ゲリベ/夏の陣 (レジャーテーブル使用)

5 月に初めて S 師と 2 人でこの地を訪れた。暑くも寒くもないちょうど良い季節なので、この時期のゲリラ (日帰り) ペディは、レジャーテーブルを使って行う。太東崎はスペースは狭くないので、張れるアンテナは K9AY が限界である。シーズ的な狙いは南太平洋の中波局だ。トンガを狙おう！などと野望を口にはしていたが、正直本気ではなかった。実際アンテナをセッティングして聞き始めても、ノイズは少ないものの Guam さえ聞こえないのでコンディションがイマイチなのか、或いはやっぱり雨崎とそんなに変わらないのかと思いついたのだが・・・まだフェイドインには少し早かったのだ。しばらく PNG の新局、

Wantok Radio Light を短波でワッチしつつ時々中波も覗いていると、間もなく 1080/KCNM、567/KGUM などの Saipan、Guam 勢が聞こえ出す。さらに 630,1548 の ABC も超強力になっていく。この間 S 師は、実は 1017/Tonga B.C.をしっかりと狙っていたのである。師はここ、太東崎のポテンシャルを確信していたのだ。そして 18 時少し前に「トンガらしき局が入ってる！」と教えてくれた。えっ、まさか！驚いてチャンネルを合わせると、スポーツ中継と思しき番組が、結構強く入っている。残念ながら 18 時には ID が出なかったが、出ていれば間違いなく確認できるレベルであった。

コンディションは 18 時台は一気にピークに達した。国内各局と競り合って、そこかしこに英語が聞こえる。ABC とのパラチェックや英語の発音から、いずれもオーストラリア局のようだ。567 では KGUM が NHK 札幌を完全に抑えて聞こえる。凄い！このバックを切る鋭い指向性こそが、K9AY の最大の武器なのだ！夕方にオーストラリア民放局を受信するというのは殆ど初めての経験だ。この日は 846/4EL、990/4RO を受信することができた。全く驚愕の体験であった。



オーストラリア 2KY 局のステッカー

このことにすっかり味をしめ、すぐにでも第 2 回をやりたくなった。そして 6 月にもやることになった。またしても S 師と 2 人だったが、このときもオーストラリア民放を数局、さらに中波では初めてとなる推定ニュージーランド局、そしてこのときも

推定トンガを受信し、ますます満足してしまった。

このロケーションの秘訣は、太平洋に向かって突き出した地形、ノイズから隔離された環境、そして海面からの高さが 60 m という高さがモノを言っているようだ。

「恋のヴィーナス岬」と名乗るだけあって絶景ではある。したがってアベックだの家族連れだの素人衆が沢山昇ってくるので、レジャーテーブルでやるときにはギャラリーの視線が集まって大変だ。皆興味深そうな視線でこちらを見るし、何人かは必ず話し掛けてくる。そうしたギャラリーへの対応が結構大変だ（笑）。

#### 太東崎の TP ペディ

秋以降も 10~12 月と 3 ヶ月連続で行った。このときは季節柄 TP 狙いである。そしてのっけから凄い経験をしてしまう。Miya さん、Shin さんと 3 人で出掛けて、大雑把に K9AY を設置して早速聞いてみる。



太東崎ゲリベ/冬の陣（テント使用）

指向性もナルポイントチェックもしていないのだが・・・そこには実に驚くべき世界が広がっていた。550~1700 まで数波の例外を除き、殆どの 10kHz ステップチャンネルで TP 局が聞こえるのだ。しかも常連局は

もう AFN 東京並みの強さである。もうここは日本ではないような錯覚さえ覚えた。

これだけ入感すると、どこから聞いていいのか茫然自失状態になってしまう。こういうときは経験上、最も強いところから 1 局ずつ確実に落としていくことが良いと思っているので、その戦術で何局も初受信局をゲットした。



690/CBU, Vancouver のペリカード

しかし何と言っても、クライマックスは 870/WWL だ。今回来れなかった T 師から、870 で何か聞こえているようなので確認して欲しいと電話を貰いワッチしたところ、間もなく ID が取れたという訳である。「あわよくば W コール」などと言っていたのがいきなり受信できてしまい、2 回目にも受信できてしまったのには驚く。1 回目のコンディションが素晴らしかったのは間違いない。3 回目はコンディションに恵まれず米本土局の入感はずだった。ハワイは良く、終始良好に KZOO が聞こえていた。やはり間違いなく太東崎はスーパーロケーションだ。

#### キャンプペディ

太東崎以外の新しい試みとしては、家族連れのキャンプ「ペディ」がある。建前上は一応家族サービスのキャンプなのだ。し

かしいつも思うのだが、家族サービスとは言っても、必ずアイドルタイムは発生するのだ。また皆寝てしまえば、その後の時間をどう使おうが、これに対しては文句は出ない。

今年は GW に、いつもの茅ヶ崎柳島キャンプ場に家族を連れて行って見た。そのときはリグを 2 台と K9AY を持っていった。S 師や NGO 先輩には「2 台もリグを持って行ってどこが家族サービスだ！」と笑われたが(笑)。家族優先なのでヘビーな DX はできなかったが、それでも隙間時間にチョコチョコワッチができて、結構楽しめた。家族も大いに喜んでくれてまた行きたかったので、6 月には今度は友人の家族と合同でのキャンプとなったが、そのときも K9AY とリグを 1 台持っていった。「1 台にすればいいってもんじゃねえだろ！」とまたまた笑われてしまったが(笑)。このときは出力わずか 400W のオーストラリア民放オフバンド局が確認できて、合間 DX としては大満足の結果が得られた。



単なるキャンプに見えるが、テーブルには 7030 が・・・

家族サービスと自分の楽しみを同時に満たす・・・その究極の手段として、大いにお奨めしたいし、来年以降もやろうと思っている。

### 【ペディションの省力化・合理化】

ここまで書いたようにペディには随分行ったが、いずれも1泊2日ないしは日帰りである。企業人としても家庭人としても忙しい世代として、なかなか2泊以上のペディを行うことは難しい。そこで回数で稼ぐことになるのだが、短時間で密度の濃い結果を出すためにも極限まで省力化し合理化した運営が必要になるのである（大げさだな（笑））。

またテントで行うペディのことをS師とふざけて「貧乏ペディ」などと呼んでいたが、この言葉に象徴されるように無駄なコストはかけない合理的な運営というも自分の目指すところである。

これらの目的のために今年導入したツールは「ホースリール」「マストにエレメントを固定したK9AY」「MDの左右両チャンネルに2台のリグの音声を受信するためのケーブル」、そして「それを再生するためのインターフェース」「ゲリラペディの電源を安定的に確保するためのカーバッテリーの使用」などがこれに当たる。

ホースリールはビバレージアンテナのエレメント巻き取り用である。これまでは200mがちょうど巻けるくらいの大きさのボビンに手で巻いていたのでラフに巻けないし手がくたびれるので、巻き取りは非常に憂鬱な作業であった。これに対しホースリールはかなり余裕があるので大雑把に巻いても問題ないし、地上に置いた状態でハンドルをクルクル回すだけなので楽だ。これまでの苦行から解放する、そして撤収の時間を短縮する画期的なツールだ。実際に茅ヶ崎ペディの撤収で使用して、余りの楽さに、驚嘆の声が上がったほどであった。



画期的な製品「アンテナ線巻き取り器」

「マストにエレメントを固定したK9AY」も素晴らしいアイデアだ。これは車ペディをやった際に実感したことだが、ロケーションが悪いと素早くたたんで素早く設営できて、ひょいひょい動けてしまうのである。これは三浦半島雨崎で実際にノイズが多い場所から逃れてジブシーの如く流浪した際に実感した。

MDの左右両チャンネルを利用して2台のリグの受信音を録音するケーブル、そしてそれを再生するインターフェースもなかなかのものだ。MDレコーダーもまだまだ高級品だ。リグの台数だけ買う訳にも行かない。左右チャンネルを利用すれば2台分のレコーダーとして使えるのだから、これで十分なのだ。

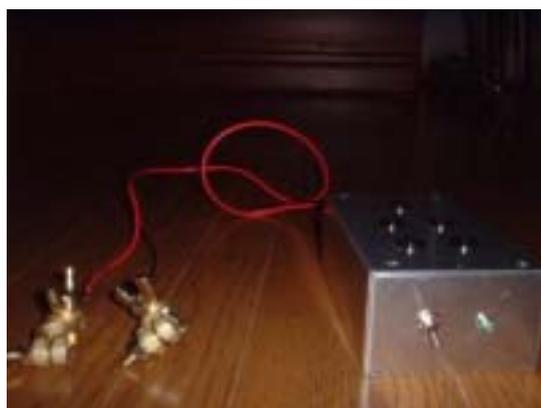


MD 左右両チャンネル録音用 I/F

ゲリラペディ用のカーバッテリーは使えるようになって良かった。元々はレジャー用のポータブルバッテリーを使っていた。こちらを使い勝手が悪くなかったのだがシガープラグで3つまでであり、しかも何が悪いのか3つ目を繋ぐといきなり電圧が低下してしまったので、2つしか繋げなくなってしまったのだ。これでは困るし、何よりこのバッテリーが使えなくなったらどうすればいいのかと不安になり、常に代替品を探していたのだ。

かねてからカーバッテリーを使うことは念頭に置いていた。以前知人のU氏に教わってCQ誌でサブバッテリーを使うという記事を読んでいたのである。車と別バッテリーを車内トランクルームに常設しておいてオルタネーターから充電する仕組みだったが、車内の配線とか結構面倒そうで、これはなかなか実現しそうになかった。そこでインターネットで見た、ハムのモバイル運用でカーバッテリーを使っているのを真似することにした。どうやって充電しどうやって分配すれば良いかがよく分からなかったが、まず充電は充電器を使えば良いことが分かりクリアできた。問題は分配だが、S師に相談したところ、ドラえもののポケットのようにバッテリーの分電盤の製作記事を持ってきて下さった。そこで早速分電盤を作り、バッテリーも近所のホームセンターで安く買ってきて試したらあっさりできてしまった。そして実際のペディで使ったが、容量も豊富で非常に良かった。

このようにいろいろ工夫してきたが、海外の状況を見聞するにPCの導入などまだまだ工夫の余地はありそうだ。それも来年の研究テーマである。



自作バッテリー分電盤

#### 【寸暇を惜しんでのオフ会】

人と会って話すのは楽しい。ネット only では限界がある。そう思っているのも、機会があればいつも会って飲むことにしている。今年もいろいろな方とお会いすることができた。どなたと会っても楽しいが、中でも初めて会えた人との飲み会は印象深い。NGO先輩とはネットではもう4年近くお付き合い頂いているが、距離の問題もあり残念ながら一度もお会いできていなかった。1月に氏が出張で東京に見えたときにやっとお目にかかることができたがこのときは時間の関係でお茶のみ。4月に私の親戚の不幸で関西に向かったとき、氏の地元でお会いしてやっと一献傾けることができた。私にとっても予期せぬ出来事だったのだが、氏のお住まいが私の親戚に行くときの通過地点だったのでダメ元で電話したところ、ご多忙の中時間を捻出して下さったのである。

駅前で待ち合わせてすぐそばのビルの屋上のピヤガーデンに案内され早速飲み始める。氏は私より数歳先輩だが何故か非常に馬が合い、受信談義、ラジオ談義で盛り上がる。笑いのポイントも価値観も非常に似

通っているように思う。仕事の話も少々。新幹線の時間もあるので3時間足らずではあったが、充実した貴重な時間であった。電話してみても良かったし、お会いできて本当に良かった。



敬愛する NGO 先輩とのツーショット

F 氏とは GW 明けにお会いした。氏は V/UDX の第一人者であるが、やはり東京にご出張なさるとのことだったので、せっかくだからと一席設けた。そしてただ飲むだけではなく、氏が FR-101 のレストアパーツを探したいとのことであったので、秋葉のナビゲーターこと S 師、そして Toku さんも誘って、神田祭で人がごった返す秋葉の街をショップ回りした。雷雨まで降り出す不安定な天気であったが無事パーツや工具を買い揃え、飲み屋に繰り出す。F 氏も飲み出すまでは学者然とした論理的な口調で超短波伝搬を語り「さすが権威！」と感心したのも束の間。酔いが回ってボルテージが上がるにつれて、親しみの持てる愛すべきオッサンに変身したのには笑えた(笑)。



F 氏を囲んで at 秋葉原/おに平

S 氏・H 氏と3人でお会いしたのは初夏の渋谷であった。お2人共飲むというよりは食事を楽しむ方であり、こちらは極めて品の良い宴会となった。BCL に対しても、愛しながらもどっぷりとは浸からない的な(浸かっているヒマがない)スタンスを確立されているように思った。



S さん、H さんとの知的なオフ

瑠璃さんがお仕事で上京なさったときも3人でお迎えした。氏は昨年私が NDXC にお邪魔した際に初めてご挨拶したが、有名なインドネシア DX の第一人者。ブーム時代からずっとその分野にこだわった DX を楽しんでおられる。氏は私が HP を立ち上げた際に激励のメールを下さって、そのときから懇意にさせて頂いている。もっぱら教えを頂戴することばかりでお世話になり

っ放しである。先回の訪名ではほんの短い昼間の時間帯にお話ただけだったが、今回は飲みながらいろいろとお話できた。氏のお仕事柄業界裏話が多かったが、オフレコにつきこれは書く訳には行かない(笑)。初めて顔を合わせる4人ではあったが、いつも思うのだがそうしたことはあまり障害にならない。同じ趣味を楽しんでいるという安心感が、そして興味を同じくするだけにスッと馴染んでいけるのである。



瑠璃さんを囲んで at 新宿

Bさんとは今年からすっかり仲良くなった。実は車で15分ほどのところにお住まいだったのだが、仲介者がいないとまずそこになかなか気が付かない。某氏の仲介がなければ、もうしばらく出会えていなかったかもしれない。幸いにも知り合うことができたので早速茅ヶ崎ペディにお誘いし、多忙の隙間を縫って参加して下さった。謙虚ながらBCLに対する熱意、愛情を感じる氏の人柄に惹かれ、少し時間はたってしまったが2人で飲んだ。私の感じた印象は間違っておらず、意気投合して語り合った。また一人、良いお仲間ができたように感じる。

年末には憧れのWakiさんともお会いすることができた。Wakiさんはブーム当時のファンの方ならご存知かと思うが、その昔

短波誌のアドバイザーだった方である。しかも私の専門分野だったインドネシア担当であった。私も当時は何度か投稿して採用して頂いたこともあった。当時はアドバイザーと言えれば雲の上の人のように思っていた。そんな人に会えるとあって、大変楽しみにしていた。Kenkenさん、Shinさんもお誘いして師走の横浜でお目にかかった。Wakiさんは、昔短波誌で見た写真の面影を残すもの静かな紳士であった。私は投稿に対しコメントを頂いた掲載誌を見せたりして、自分の感激を伝えようとする。あのままBCLを復活しなかったら決してお会いできなかったであろう方と四半世紀掛かりでお目にかかったというのも深いご縁があるのだろう。深い感慨を覚えた。



Wakiさんを囲んで at 横浜

仕事も年齢も全然異なる方々と知り合っ  
て話すのは本当に楽しい。そうした方々と  
出会えるのは幸せだし、新しい友達が沢山  
できて嬉しい。これからも寸暇を惜しんで  
きっかけを逸さずに続けていくつもりだ。

#### 【海外のDXerとの交流】

BCL復活後の目標のひとつとして、海外のDXerと交流することがあった。特にDXをやっている不明局があったり、現地事情

が知りたいときなど、現地の人に尋ねれば一発で分かるであろうから、いろいろ情報交換をしたかったのである。特に中波 DX を中心とする今では、メインエリアである北米、オーストラリア辺りに、そうした情報交換をできる友人が欲しかった。インターネット時代の今、そうした方々とお付き合いしないというのはとても勿体無いことのように思う。私はそうした時代を全く知らないが、昔であれば全て郵便でやらなければいけなかったので、大変な労力だった筈である。それから考えればパソコンでお手軽に、殆どコストを掛けずに、準リアルタイムに交流できるというのはもの凄い恩恵である。

しかし特に外国人の場合、どうやって知り合ってどなたとお付き合いしたらいいかというのは難しい問題である。きっかけをどのようにつかむか、そして価値観の合う仲間をいかに見つけるかで躊躇していた。自分の英語力も今一でありどうしたものかと思っていたが、案ずるより生むが易しで、やっしまえば何となく全て上手く行ってしまった。きっかけは大先輩、化石 OM に頂戴したアドバイスだった。

10 月末に太東崎で初の W コールとなる WWL を受信したときに、氏より「この日はコンディションが世界的に良かったみたいだから、その受信も発表してみたら？」とサジェスションを頂いたのである。それは面白そうだと思い、これまで時機がきたらと躊躇し続けていた海外に一步を踏み出したのだ。具体的には Glenn Hauser 氏のサイトに投稿したのである。

氏よりは程なく投稿を歓迎するメールを頂戴し、投稿も翌日には掲載して頂いた。

投稿には簡単な自己紹介を書いたのだが、それも掲載してくれていた。そしてそれこそが、新たな出会いを作るきっかけとなったのである。

日本の DXer は忙しいのか、なかなか海外まで進出しているヒマがないのだろう。そういう意味では、しゃしゃり出てきた私は注目して頂けたようである。程なく 2 人の方からメールを頂戴することになった。お一人はフィンランドの方で、氏の主宰する ML に加わらないかと誘って下さった。大変嬉しく、拙い英語を駆使して返信を書き、早速仲間に入れて頂いた。相手に少しでも親しみを持って貰うために、私はいつも写真を添付するようにしている。そうすると相手も写真添付で返信をくれるものだ。それにより 2 人の関係はぐっと緊密感を増すのである。



M 氏より頂戴した家族写真。北欧っぽい

もうお一人はアメリカの方だった。上記 ML に参加している方から聞いたとのことで、日本の Dixer とコンタクトを取りたかったのだそうである。私のご期待に応えられるような存在かどうかは分からないが、氏も TP を愛する MWDXer であったので、嗜好的にはピッタリである。というか実力的にも非常に高い方であり、まだまだ経験

の浅い私など恐れ多いベテランである。お年の頃も私よりかなり先輩であるが腰も低くメールの内容も非常に丁寧であり、また日本にも住んでいたことがあったとのこと、すっかり慣れ親しんでしまった。

「不明局があるって言ってたけど、聞いてあげるからいつでも送って下さい。」というお言葉に甘えて早速ファイルを送ったところ、いろいろな角度から検証して推理した返信を下さった。まさにこうした交流をしたかったので大変嬉しく、親切な対応にすっかり惚れ込んでしまった感じである。今回は自分が氏のお役に立つ番である。



J氏より頂戴した家族写真

もちろん一義的にはこうした交流が目的だが、必然的に付いて来ざるを得ない成果としては英語力がある。私は英語は好きなのだが、これまでなかなか使う機会に恵まれなかった。今回はまさにアウトプット学習の最適の機会である。興味のある分野だからこそ、この学習方法は使えそうだ。

そんな意味もあって来年は英語版のWebsiteも立ち上げて、より一層交流の機会を求めて行こうと思っている。

### 【KZOO 受信とベリゲット】

KZOO は私にとっての憧れの1局であった。BCL ブーマー世代の中には、その昔KZOO とラジオたんぱが年に1回共同で番組を制作し放送していたのをご記憶の方もおられるかもしれない。私も当時から知ってはいたが、KZOO など到底受信できる設備もスキルも無く、遠い世界の出来事になっていた。しかしBCLを復活して、何故か興味の対象が中波～しかも北米中波(TPDX)になっていく中で、いつしかKZOO は現実的な受信の対象としてクローズアップされるようになっていった。しかし出力1kWとあっては自宅ではなかなか受信できず、ペディションに賭けるしかない。事実ハワイ各局は茅ヶ崎のペディに行き1500/KUMUを筆頭に受信できるようになり、今はなき日本語局1370/KJPNなども受信できた。同じときに肝心のKZOOらしき電波を捉まえることはできなかった。残念ながらIDを取るには至らなかった。

そんな訳で継続課題として残ったKZOOを受信するチャンスは、1月の運沼で巡って来た。北東向け300mビバレージアンテナを設置しTPDXに臨んだが、当日はTPは全般的に不良。北米大陸からの電波は殆どキャッチできない中で、唯一良かったのがハワイであった。KUMUは非常に強くローカル並み、その他のハワイチャンネルも軒並み入感が確認でき、それならばKZOOも・・・と思い、1210にチャンネルを合わせると・・・おお、弱々しいながらも入っているではないか！これはチャンスとばかりに、他は一切無視してここに集中する。と間もなく英語で”K-Z-O-O Radio...Honolulu Hawaii”とIDが取れた。やった！思わず両

手を突き上げてガッツポーズ。周囲の仲間たちは私のオーバーアクションに失笑。でもまあ憧れの局を受信したのだから勘弁して欲しいところだ。



KZOOを受信して狂喜する筆者 at 蓮沼

さあ、そうなると次の段階はレポートだ。このとき受信できたハワイ4局とともにレポートを送ってみた。ところが他の3局からは返信が届いたのに、どうしても返信を得たいこの局ともう1局からは返信が来ない。残念だなあと諦める、傷心の日々が続いた。

そんな時私にとっての朗報が入った。敬愛するS師がバケーションでハワイに行くというのである。私はすぐに連絡し、「私のレポートを持ってKZOOに行って、是非とも返信をゲットして来て下さい！」などと厚かましいお願いをした。私という人間を理解している（諦めている？）師は実に親切な人である。「忙しいから期待しないで」とか言いながら、一方的に送りつけられたレポートを印字し、音声をCD-Rに焼き、ハワイまで持参して下さったのである。

師からはハワイよりの緊急打電としてメールを頂戴し、「KZOOを訪問し無事ペリをゲットせり！」の報を頂いた。おお！素晴らしい。早くS師帰って来いと念じつつ日々を過ごす。

師とは秋葉で飯を食べながらお会いした。早速「これですよ」と渡してもらったのは・・・紛れもない、KZOOのペリだ（表紙参照）。KZOOは元々ホノルルのWard Ave.にあったのだが、郊外のマーケットプレイスに移転していたのであった。返信が来なかったのも、そのことによる手違いかもしれない。しかし師はアラモアナショッピングセンターから出発するバスに揺られて、はるばるKZOOまで行って下さったのである。

師はそのときの模様を語って下さったが、まるでオタクのようにスタジオを外から見つめ、やおら訪問して下さったのだ。そして訪問の趣旨を告げ、私の受信音を再生してもらったそうである。スタッフの皆さんも聞いてくれて「おお、日本ではこんな風に聞こえるのか！」と感激してくれたそうである。そして師は急遽インタビューされて、放送にも飛び入り出演することになった。その模様を録音したCDも聞かせてもらったが、氏名・年齢を聞かれ、師は我々の趣味について語っておられた。



S師が訪ねたホノルルKZOOのスタジオ

師ご自身にとってもこの体験は印象深いものとなったようで、感慨深げに思い出を語って下さった。

師のご厚意には感謝の言葉も見つからないし、師の友情を本当に有難く思う。自分も時には海外に行くこともあると思うので、是非恩返しをさせて頂きたいと思っている。

### 【2005年の工作】

今年もいろいろなものを作った。その中でも最も力を入れたし記憶に残ったのはNFB プリアンプと遠隔操作型 K9AY アンテナ、平行録音・再生 I/F、そしてカーバッテリーの分電盤、T2FD アンテナであった。

#### NFB プリアンプ

2005 年に入って最初に取り組んだのがこれだ。めがねコアという特殊なパーツがあったので着手が遅くなったが、2004 年末に仲間の皆さんと海外から共同購入してやっと工作に取り掛かった。もちろんいつもの S 師の親身なるご指導があったことは言うまでもない。2004 年末ギリギリまで詳細にご教示頂き、正月休みから作業を開始した。

みっちり指導して頂いたお陰で製品は無事完成した・・・かに思えた。ところが完成品は中波帯は増幅するのに、何故か短波帯を増幅しないのだ。おかしい。私はこのおかしさをコアのせいとみて、コアを交換すべきだと別のものに変えてみた。若干改善したようにも思うが、やはりダメだ。何故だ！

まあ中波帯は何とか使えているのでしばらくはそのままだったが、どうも気持ちが悪い。そんな日々が続いていたある日・・・仕事の移動中に出し抜けにあることに思い至った。「コアの巻き数って合っていたの

か？」。そう、ラッピングワイヤーがコアを通過した回数を巻き数とカウントするのだから、「U字状態」だと既に1回巻いたことになるのではないかとすると私の巻き数は1回ずつ多かったのではないかと？

家に帰るとすぐにアンプのケースを開け、すぐにトランス部分を外す。そして巻き数を1回減らして今一度装着する。すると・・・これだぁ！まさにここであった。短波帯はきっちり増幅されるようになった。よし、それならと、今度はお手本にあった高利得仕様に変更してみる。これはトランスの巻き数を変更するだけだ。ただし巻き数が多くなるので、ラッピングワイヤーだとコアを通せなくなってしまうので、ホルマル線を使う。それで今一度巻き直してスイッチを入れると・・・来たーっ！増幅度合いが大きくなる。具体的にはプラス 10dB 15dB である。ノイズフロアも上がらずに、なかなか FB である。



NFB プリアンプの内部。これは S 師の作品

このアンプは素晴らしかったので、2号機も作ってみた。最大の収穫は、この工作の過程でいろいろ失敗したのだが、その際にテスターを使って不良箇所を特定する方法を理解したことである。これは非常に大きな進歩であった。

### 遠隔操作型 K9AY アンテナ

今までは非常にシンプルな K9AY を使用していた。これでも十分な性能を発揮してくれて、数々の珍局を受信してきた。ただこのアンテナの弱点は、ナル調整を遠隔操作で行えないことと、2 方向しか切り替えができないことである。ナル調整とは、同一周波数で異方向から来る電波が最も弱くなるように調整することである。遠隔でやらなくとも 2 人で大声を出しながらやることもできなくはないが、イマイチスマートさに欠ける。

それから 2 方向しか切り替えられない場合、例えば南北方向だけで切り替えたとしても、東西方向は全く対象外になってしまう。

そこで考えられたのが遠隔操作型・4 方向切り替え型 K9AY である。元々このタイプで発表されていたし、Welbrook などの市販品もこのタイプであった。しかし例えば Wellbrook のそれは定価ベースで 5 万円以上に上るといってもなく高いシロモノであった。

しかしパーツさえ揃えば自作も可能とのこと、やはり S 師が設計して試作して下さった。そしてそのノウハウを余すことなく公開して下さったので、S 師を慕う 12 使徒が集まって工作会を開くことにした。

拙宅にいつもの Miya さん、Shin さん、そしてスペシャルゲストでイケメン DXer の T さんまで加わって、飲み食いしながらの工作会だ。初見参になる T 氏はこのマニアックな光景にあっけにとられていたが、しばらくしてエンジンが掛かった。

残念ながら時間がなくて完成は後日に持ち越しとなったが、何とか完成まで持ち込

むことができた。



師のご指導の下完成した K9AY

T2FD アンテナも作って設置してみた。以前 RF Systems 製のものを購入して使っていて、ローノイズで短波の DX には非常に FB であった。しかしその後 DX の中心が中波にシフトしたため、ALA-1530 のみにしてしまったのであった。久々トロピカルバンドを聞きたくなり、(RF Systems 製は 3 万円以上するので)今回は自作したのであった。

設置して聞いてみたが、以前のようなローノイズではなく、嫌なノイズが入る。これではダメだ。そう諦めて数ヶ月ほどで撤去する羽目になった。そして balan 部を開けて見たところ、配線が 1 箇所抜けていることが判明した。或いは不良の原因はこれだったのかも知れない。もう一度設置して試す気力がなく、放置プレイ状態が続いているが、しっかり動くとすれば勿体無い話だ。いずれやらなくては。



不調に終わった T2FD。リトライが待たれる

以上の工作以外に、本当はハイカットフィルタも加わる筈であった。これはクリスタルフィルタいらずの優れモノで、際どい混信を切り捨てる意味でも TPDx のシーズン前に完成させたいところであった。しかしなかなかの難易度の作品のため一人ではビビって着手できず、パーツを揃えただけで今年は終わってしまった。来年こそ完成させなければならない。

### 【QSL 獲得への道】

以前「受信報告書を書くこと」という題でここに書いたことがあるが、それ以降もレポート送付は継続的に行っていた。というよりも、尚一層ヒートアップの様相を呈している。何度も書いてしまうのだが、20年間のブランクを埋めたい気持ちが原動力になるのであろう。そのためにあるときは根を詰めて、沢山書いたりする。

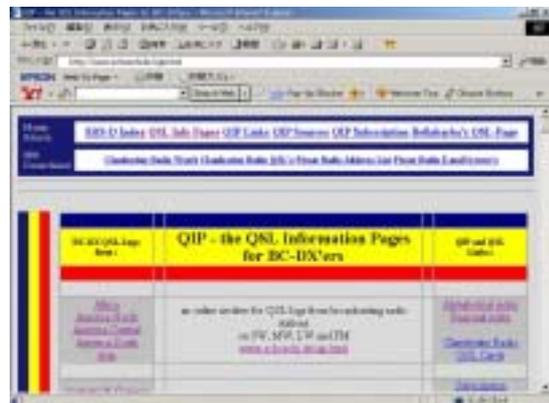
私のポリシーとして、1つの局からは1枚しか貰わない。そしてできるだけ沢山の局から、返信を貰うことを目指している。これまで国内民放中波局は全局、海外国際局は7割方集めただろうか。そして勢いコレクションの対象は、海外の国内向け局＝いわゆる DX 局になる。

そもそも海外の国内向け放送局は、日本

のリスナーを想定していない。それが聞こえたことを報告しても感心はしてくれるかもしれないが、そのレポートに対し返信をすることは彼らにとっては何ら利益を生まない。返信をしてくれるとしたら、それは全くの厚意である。それだけになかなか難しい。そこでマニアとしては如何にしてそのキーパーソンに辿り着くこと、そしてその人の関心を引き付け、返信してやろうという気持ちにさせるかが大変重要になる。そこがノウハウである。私の場合下記のようなやり方で、返信の確率を高めるようにしている。

まず一番大切なのは、キーパーソンに読んでもらうことである。そのためにやっているのは、過去の V/S (ベリへの署名者) を探し出し、その人宛に送付することである。具体的な方法は世界的な QSL の返信情報サイト、その名も

「QIP - the QSL Information Pages」



QIP のトップページ

(<http://www.schoechi.de/qip.html>) を参照することである。ここをみると、概ねの傾向と対策が掴める。返信実績はあるのか？どのくらいで返信が来るのか？V/S は誰なのか？QTH は？などの情報が一覧できる。

次にやることは受信音を同封することだ。

具体的にはミニ CD-R に mp3 や wav ファイルを録音するのだ。ミニ CD-R なら送料も最低料金で済む。しかしミニ CD-R は 100 円ショップで買うと 1 枚 100 円してしまう。特殊なサイズなので割高なのだ。何とか安く購入する方法はないか？そんなある日秋葉原の PC ショップで、1 枚 30 円で売られているのを発見して大量に買い占めた。これで当分安泰などと思っていたらあっという間に使い果たしてしまい、次に買いに行ったら何と売り切れてしまっていた！後悔することしきりだったが、ある日 S 師と話していて良いことを思いついた。それは東南アジアに広いネットワークを有するパイヤーこと NGO 先輩に探してもらうことである(笑)。お忙しい先輩にとっては迷惑千万な筈だが、先輩は大変洒落を理解する方である。「面白いじゃないですか！」とご賛同下さり、早速探して下さった。かくして 30 円まではいかないが 50 円くらいで買えたので、私は 100 枚買って頂いた。

それから細かい工夫だが、宛名ラベルを使って自分のリターンアドレスのシールを同封することも開始した。自分のために自分の住所を書くのですら面倒だと思うのだから、いわんや他人のをやだ。これを始めたところ何局かは気がついて返送用封筒に貼ってくれたが、少しは返信率向上に寄与してくれるかも知れない。

最後に今年特に取り組んだのは、フォローアップレポートの送付である。これまでは返信が来ないと全てボツと考え、再度受信するところから始めないといけなと考えていた。しかしボツになったのが、必ずしもレポートの不備とは限らない。郵便事情でそもそも届かなかった、届いたけれど

キーマンに渡る前に捨てられてしまった、或いは担当者が忙し過ぎて忘れられてしまった等々、自分に責任のない場合も多かるう。その場合何も最初からやる必要もなく、以前送ったレポートでリトライすれば良いのである。そう気が付いて、事情を書いた私信と以前のレポートを再送したところ、結構な局から返信を得ることが出来た。

以上些細なノウハウだが僭越ながら公開させて頂くと同時に、更に確率を高める方法を考えていきたいと思っている。

#### 【自宅での DX】

年々 DX 環境は厳しくなっていて、ペディションでなければ DX 局が受信しにくい状況になっている。それでもワッチしてさえいれば、時に大物が引っ掛かってくることもある。それこそが醍醐味である。今年もそういう意味では、思い出に残る何局かがある。

アラスカの極北にある KBRW はなかなか受信しにくい局だが、2004 年初めて受信できた。その時の QSL は 2005 年に入って無事手にすることが出来たし、受信そのものも 2005 年にも出来た。



世界最北の放送局/KBRW のステッカー

2CA はオーストラリア・キャンベラの民放局だ。それこそ昔はオーストラリア民放はそんなに受信が難しい訳ではなかったようだ。しかし昨今では特に NHK・KBS の

24h 放送の影響でチャンネルが空かないため、受信が非常に難しいのだ。それだけにチャンネルがクリアになったタイミングと、電波が届いたタイミングが一致して受信できたときは非常に嬉しかった。



2CA のペリレター

R.Sweden を中波で受信したのも今年だ。出力も大きいので受信できない筈はないのだが、昔に比べると頻度が低いのは間違いない。このときもわずかにクリアになったチャンスに飛び込んで来て、毎日放送の垂れ流しキャリアと闘いながらやっと受信できたのだ。

ペディに頼ってばかりいると、こうした地道な DX を忘れがちである。自宅で受信環境を改善して、どれだけ面白い局が受信できるかチャレンジするのも、これからの楽しみだ。

～ エピローグ～

#### 【Join Globally, Act Locally!】

年末になって残念なニュースが飛び込んできた。84 年に活動を再開した日本 BCL 連盟会報「MY WAVE」の休刊である。実質的には「MY WAVE」が B 連の主たる活動であっただけに、この休刊は B 連自体の活動停止に等しい。私自身 BCL 復活後何年

かは会員であったし、投稿していた時期もあったので、非常に寂しい気持ちがしている。



「最後の MY WAVE」2005 年 12 月号

こうした団体の運営は大変難しいであろう。ブーム時代の BCL 人口が何百万人もいた時代であれば、専任の職員を置いて運営できるであろう。大昔の B 連だ。勿論会費収入もあるし、何よりも企業スポンサーからの支援が期待できる。

しかしながら BCL 人口が非常に少ない今（一体何人いるのだろうか？）企業スポンサーはつかない。会費収入にも限界がある。従ってこうした事務局を置いての運営形態は維持できない訳である。

コマーシャルイズムで運営できないとなると、ボランティアリズムで運営するしかない。そのためにはそれに時間が投資できる人がいれば良いが、仕事を持っているとなかなかそうは行かない。勢い忙しい現役世代が合間を縫って世話人をやる、或いは仕事からはリタイアしたご年配の方がリードして下さる、そうした個人の厚意に頼ることになる。これではなかなか続かない。

私自身この問題についてはどうあるべきかをずっと考えていた。団体をどう運営すべきかの答は残念ながら出ていない。しかし私自身の行動指針は、概ねまとまっている。それは「Join Globally, Act Locally!」という言葉に集約される。これは数年前、ある企業に貼られていたスローガンを少しもじったものである。

インターネットの出現は、人々の結びつきを容易にしてくれた。そのために団体がなくなっても分権型・バーチャル組織は維持できる訳である。しかもネットは空間・時間の限界をも超越する。北海道・沖縄の方とも、更には私がフィンランドやアメリカの DXer と交流出来たように、どんな遠くの人とでも、準リアルタイムに交流できる。

しかしネット万能でないことは、私自身思い知らされた経験がある。オフラインでの Face to face の関係は必須であり、そのベースの上にこそ、親密なオンラインの関係が成立すると言える。ただ、誰とでもオフラインで交流するのは無理である。そうして生まれてきたのが、先の私自身の行動指針である。

交流自体は広く世界規模で求めていく…ネットの恩恵は徹底的に享受させて頂きたい。従ってこれからも国内外を問わず、広く友人を求めていくことになる。そうした遠方の友人とは、機会を見つけてオフラインで交流することにしたい。

しかし日常的にはやはり近所の仲間である。さあ遊ぼうか、と声を掛けたら何人かが躊躇なく集まれるくらいの距離で、そうした仲間がいると長く楽しめるであろう。というか既にそうしたお仲間は幸いにも何

人かいるので、更にはその輪を広げていくことである。これはかの NDXC に、そのモデルを見出すことができる。名古屋という比較的狭い地域に集中しているからこそ、NDXC は 30 年( )も続いているのである。( 1976 年に設立された ) 2006 年はそれを具現化する年として、一步を踏み出して行こうと思っている。



特別寄稿:Shin さん作「ペディ記」 許可を頂いて掲載しました。楽しさが伝われば幸いです。

**MY BCL LIFE 2005**

2006年1月1日発行

著者：Naka

1964年神奈川県生まれ。現在も在住。1975～80年にBCLに熱中するも、高校進学とともにリタイア。20年のブランクを経て2000年復活。2004年1月にバーチャル書籍「MY BCL LIFE」を発表。以降2004年、そして今回と2年連続でアニュアルバージョンを執筆するなどすっかり悪ノリしている(笑)。BCL以外では美容と健康のためスポーツクラブに通うことを趣味(義務)としている。飲み会は好きだが酒は強い方ではなく、途中で寝ることもしばしば。妻1人と2女あり。

